

5 年 2 組 総合的な学習の時間学習指導案

授業者 吉木 寿充

授業① 5 年 2 組教室

1 単元名 石川の観光について考える

2 小単元のねらい

金沢市の観光の現状や特色を調べ、観光の充実に向けた多様な取り組みを行うことを通して、金沢市の魅力や観光に携わる人、金沢市を訪れる人の思いや願いに気付くとともに、多様な方法で情報を収集・整理・分析しながら、金沢市の観光をよりよくするための方法を粘り強く考え、それらを自らの生活や行動に生かすことができる。

3 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①インタビュー活動を通して、観光に携わる人の思いや願いを理解している。（聞く力）	①現状や特色を調べる活動を通して、自分の課題や課題解決に向けての方法や手順を考えたり、課題を修正したりしている。（課題を発見する力） ②多様な方法で情報を収集し、目的に応じて手段を選択して、情報を整理・分析をしている。（情報を収集・整理・分析する力）	②自己やグループに合ったゴールを設定し、失敗や間違いを恐れず、粘り強く取り組んでいる。（挑戦心）

4 指導にあたって

（１）教材観

金沢市の歴史は、16 世紀に前田家が金沢市城に入城し、加賀藩の城下町として発展したことに始まる。戦国時代から江戸時代にかけて、加賀百万石の城下町として日本第 4 位の大都市として栄えた。前田家は藩の財力を生かし、全国から名高い名工や文化人を招聘し、金沢市の地で日本の伝統を保護・発展させた。また、第二次世界大戦で空襲を受けなかったことから、今でも市街地には江戸時代の歴史的遺構や歴史的建造物が残っている。現在も、都市景観条例などの条例を制定し、その歴史的町並みの整備や保存に努めている。

そんな金沢市が 2024 年に米有力旅行メディア『NATIONAL GEOGRAPHIC』による「Best of the World 2025（2025 年に行くべき世界の旅行先 25 選）」に選出された。その理由として、同ホームページでは「『混雑を避けて伝統的な日本を体験』。京都は観光客過多になり、市当局は歴史ある祇園地区の特定の通りを封鎖しています。しかし、金沢市では本物の日本を味わうことができます。京都から電車でわずか 2 時間の場所にあるこの城下町は、保存状態の良い街で、木造の茶屋が立ち並ぶ花街、日本で最も美しい庭園の一つである兼六園、そして将軍の時代を彷彿とさせる江戸時代の武家屋敷があります」と、小京都としての金沢市を紹介している。

一方で、「金沢市経済局観光政策課の調査」によると、観光客から「旅行者のマナー違反对策」や「公共交通の混雑対策」について、早急に取り組んでほしいという声が上がっている。

金沢市のよさと課題の両面から課題解決に向けた方策を模索することができ、さまざまな視点から観光都市・金沢市を見つめることができる題材である。今住む金沢市を観光という視点から見つめ、未来の金沢市の姿を考えることで、「聞く力」や「情報を収集・整理・分析する力」などの力を養うことができる。

（２）児童観

児童に金沢市はどんな都市か尋ねると、「伝統工芸が有名」「有名な場所（観光地）が多い」「海鮮や加賀野菜などの食文化もすてき」など、さまざまな視点から金沢市がすてきな都市だと意識しているようだった。一方で、「2025年に行くべき世界の旅行先25選」に金沢市が選ばれたことを伝え、「なぜ金沢市が選ばれたのだろうか？」と驚いている児童が多くいた。

1学期の学習では、フィールドワークを通して金沢市の観光について調べる中で、さまざまな問いが生まれてきた。個別に問いを追究し、「金沢市に多くの観光客が訪れているのはなぜか」という学習問題の解決をめざしてきた。「京都と金沢市の違いは？」「金沢市を知ったきっかけは？」など、さまざまな問いに対して個別に調べながら、必要に応じて交流を重ねて学習を展開してきている。1学期の学びを通して、児童は金沢市に観光客が多く訪れていることは理解している。しかし、観光が地域の伝統や風土を守っていくことにつながることは気付いていない。

聞く力については、共感的に聞いたり、自分なりの反応を返したりしながら聞く児童が少しずつ増えてきている。また、それぞれが異なる問いについて学習していることから、要点をとらえながら聞く力も少しずつ育ってきている。さらに、観光客へのインタビューを繰り返す中で、自分の思いを伝えたり、知りたい情報を引き出したりする力もついてきている。しかし、自分の考えと立場が違う考えから、良さを見つける力は十分ではない。

情報を収集する力については、多様な方法で情報を収集する経験を積んでいるため、今後も不足している情報があれば自ら足を運び、インタビュー活動や調査活動を展開していくことが予想される。学習支援アプリを情報共有の場としていることから、収集した情報を全体で共有し、授業外での学びも深まっていくであろう。整理・分析する力においては、考える技法の習得をめざして学習を進めている。特に1学期は「情報を比較する力」「批判的に考察する力」の習得を重点に進めてきた。一つの情報や一面的な情報だけで判断するのではなく、多面的・多角的に物事を判断しようとする意識が少しずつ育ってきている。

（３）指導観

本小単元では、1学期に取り組んできた学びをさらに発展させ、児童の興味・関心を生かしながら、課題解決的な学習を展開していく。その中で特に、情報を収集・整理・分析する力、聞く力、挑戦心の3つの資質・能力を高めていくことをめざす。他教科で獲得した学習方法を意図的に活用し、9つの資質・能力を発揮できるようにしていく。

まず、1学期の学習をふり返り、観光に携わる人たちに目を向けさせていく。観光に携わる人たちの思いや願いに触れさせることで、観光が地域の文化や風土を継承していく原動力になることに気付かせていきたい。さらに、金沢市の文化や風土の継承のために尽力している人の話を聞くことで、「自分たちも大好きな金沢市のよさを未来に残していきたい」という思いを形成していく。その思いを出発点に、「金沢市の未来に残したいオモしろくてアツい（オモアツ）モノ・コト・ヒトを探そう！」を大課題として設定する（課題を発見する力）。

金沢市の観光における新たな価値を創造していくことは、児童にとって容易ではないと考える。そこでまずは、学校や児童が住んでいる地区を舞台に、まだあまり知られていないが自分にとって価値があ

ることを見いだす活動を取り入れていく。その際に、「自分の考えと比較しながら聞く」という学習方法を発揮させることで、他者の考えとの共通点や相違点を考えさせていきたい（聞く力）。

情報の収集・整理・分析の場面では、小集団を活用し、PBL の概念に基づいてプロジェクト型で学習を進める。抽象的な概念だけで終わらず、具体的な事例を比較させていくことで、実感をもった理解につなげていく。「思考ツールを使って情報を整理する」や「視点をもって情報を見る」といった共有してきた学習方法を活用しながら、自分たちが見つけた情報を多面的・多角的にとらえ、物事を考えていく力を育てていく（情報を収集・整理・分析する力）。

このように、本小単元では、これまで身に付けてきた学習方法を活用しながら、観光がもたらすことのよさについて考える中で、児童の資質・能力が相互に関わり合いながら高まっていくような指導をめざしていく。

5 小単元計画（総時数 28 時間）

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・ 予想される児童の思考	★9つの資質能力の育成に関わる手立て	評価
1～2	○どうして金沢市はたくさんの人が観光に訪れているのかな。 ・金沢市の文化や歴史を求めてきている人が多かったよ。 ・新幹線ができたことが多くの観光客が訪れるきっかけになっていたね。 ・多くの国から観光客が訪れていたね。	★共感的に聞いたり、疑問をもって聞いたりできるようにするために、ワールドカフェを取り入れる。（聞く力）	知①
3～4	○金沢市の観光が盛り上がることにについて自分たちはどう思うかな。 ・混雑するし、値段が高くなるデメリットがある。 ・メリットを感じるのは観光に携わっている人たちだけだと思うよ。	★自分達はどうかを考えさせることで、視点が変わっても比較して考えることができるようにする。（聞く力）	主②
5～7	○観光業に携わっている人はどんな思いをもっているかな。 ・観光客が来てくれると儲かるからうれしいと思っているはず。 ・市民がデメリットを感じることは分かっているのかな。 ○山田滋彦さんはどんな思いを持っているのかな。 ・観光を通して、地域の文化や歴史が未来につながっていくことを目指しているね。 ・観光も地域の文化を守っていくことには大切なことだね。 ・3、4年生で学んできたことも観光客に知ってもらえればもっと有名になるはずだね。	★自分たちの気持ちや状況、観光に携わる人の気持ちや状況を考えさせることで、多様な視点で物事を考えることができるようにさせる。（聞く力） ★あらかじめ見当を付けさせてから情報を収集させることで、山田さんの思いや願いを引き出せるようにする。（聞く力）	知①

8	○地域の文化や歴史が未来につながるためにどんなモノ・コト・ヒトを探したらいいかな。 ・山田さんは金沢市の町屋や伝統工芸を残していきたいと考えていたね。 ・あまり注目されていないものにも注目していたね。		思①
9～13	○金沢市といえばどんな文化や歴史、伝統があるかな。 ・金沢市といえば食文化が有名だね。 ・1学期に学習した観光地も歴史が感じられるね。 ○これらのものはどうして大切なのかな。 ・歴史があるから大切だよ。 ・どうして大切かはもっと調べないと分からないな。 ○みんなが知っている学校で大切ポイントを見付ける練習をしてみよう。 ・私は150年続いている歴史がステキだと思うよ。 ・長い学校名も珍しくていいよね。 ・日頃何気なく過ごしているところにも価値はあるね。 ○金沢市の文化や歴史にはどんな価値があるかな。 ・和菓子や金箔は職人さんの技が受け継がれているから大切だと思うよ。 ・観光地は市民に愛されているから大切だよ。 ・郷土料理も受け継がれてきているという価値があるね。 ・価値がはっきりしたから次は認知度を調査してみよう	★段階的に調べさせることで、児童の思考を整理させながら学習が展開されるようにする。 (情報を収集・整理・分析する力) ★大切を具体的な言葉で表現させるために、学校を舞台に大切ポイントを見つけさせ、価値として共有する。 (課題を発見する力) ★見つけた価値をもとに金沢市の文化や歴史を見直させることで、必要感を持って情報収集させる。 (情報を収集・整理・分析する力)	思②
14～16 課外	○金沢市の文化や歴史の認知度はどうかな。 ・みんなが知っているか知っていないってどうやって判断したらいいかな。 ・まずは自分たちの認知度を調査してみよう。 ・お家の人にも聞いてみてもいいね。 ・観光客にも聞いてみたいね。 ○集めた情報を整理するとどんなことがわかるかな。 ・自分たちが知っていなくても家の人を知っているものがあるね。 ・金沢市に住んでいる人の方が観光客より知らないものがあるって意外。 ・まだ注目されていないものに注目すると未来に残る可能性が広がっていきそうだね。		知①

17～19 (本時)	○金沢市の文化や歴史の価値と認知度を整理・分析すると何がわかるかな ・価値が高くて、注目されていないものを見つきたいね。 ・和傘の認知度は低いけど職人さんの技術が価値だね。それに古くから続いているよね。	★オモアツポイントや認知度調査の情報をもとに、座標軸に整理させることで、オモアツを見つけさせる。 (情報を収集・整理・分析する力)	思②
18～20	○見つけたオモアツを未来につないでいくために自分たちにできることは何かな？ ・知ってもらいたいよね。 ・買ってもらうことが助けになるよ。 ・足を運んでもらうことが大切だと思うな。 ・どんなことを望んでいるか聞く必要があると思うよ。	★目標の達成までに必要なことを思考ツールに整理させることで、達成しなければならないことの見通しをもたせる。(課題を発見する力)	思①
21～27	○オモアツを発信するにはどんな準備がいるかな。 ・誰に発信したらいいかな？ ・発信相手をはっきりする必要があるね。 ・発信の方法を考えないといけないね。 ・どんな方法があるかな？	★発信方法を試す場を設けることで、何度も修正を重ねさせ、よりよい発信になるようにする。(挑戦心)	主②
28	○2学期の学習をふり返り、どんな3学期にしていきたいかな。	★継続評価をもとに、自身の学習の様子、成長を実感させ、今後の学びへの意欲をもたせる。(挑戦心)	主②

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

金沢市の未来に残したいオモアツを探すために、座標軸を用いて集めた情報を整理・分析することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 学習の展開（本時は試行の場面）

時	主な学習活動と児童の思考の流れ ○教師の発問 ・予想される児童の思考	・指導 ◎評価 ★9つの資質能力の育成に関わる手立て
5	1. 学習の見通しをもつ ・認知度を調査することができたね。 ・認知度とオモアツポイントを使ってオモアツを見つけよう。	・小単元のゴールに向け、自己調整的な学びを促すために、探究のサイクルの中で本時はどこに位置づくか確認させる。
5	2. 課題をたしかめる ＜モノ・コト・ヒトを整理して、オモアツを見付けよう＞ ・座標軸を使って整理するとよさそうだね。	
25	3. モノ・コト・ヒトを整理する ○今まで得た情報をもとにオモアツを見付けよう。 ・認知度をもとに整理していこう。 ・オモアツポイントに当てはまるものが多いと価値が高いつてことにしよう。 ・価値は高いけど、認知度が高いものもたくさんあるね。	★オモアツポイントや認知度調査の情報をもとに、座標軸に整理させることで、オモアツを見付けさせる。 ◎金沢市の未来に残したいオモアツを探すために、座標軸を用いて集めた情報を整理・分析している 【思考・判断・表現】 (行動観察・タブレット端末)
10	4. 学習をまとめ、ふり返る ○オモアツは見付かったかな。 ・座標軸で整理したらどれくらい認知されているかはっきりしたよ。 ・次は見付けたオモアツをどうしていくか考えたいな。 ・まだはっきりしていないこともあるよ。 クラスみんなで集めた情報を使って整理したらオモアツが見付かったよ。	
		・次時の学びへの見通しをもたせるために、学習を評価させる。